

I 2018年度の東洋文庫

2018年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、及び内容の要旨は次の通りである。

まず本年度内に生じた役員・職員等の異動について述べる。6月の評議員会にて、任期満了となった理事3名、監事1名の改選が行われた。中根千枝、斯波義信、杉浦康之の各氏、又、監事の伊与部恒雄氏が再任された。又、三木繁光理事からは辞任の申し出があり、ご退任となった。新たに畔柳信雄氏が理事に選任された。

任期満了となった評議員はいなかった。評議員は12名、理事は10名、監事は2名（前年度と変更なし）の体制となっている。

評議員会に引き続き開催された臨時理事会において、杉浦康之理事が前年に引き続き専務理事に選出された。又、業務執行理事（常務理事）に、斯波義信理事が再任された。

2018年4月にエリザベス・ペリー氏（ハーバード・エンチン研究所所長）に名誉研究員にご就任いただいた。

褒章関連では、2018年6月に斯波義信文庫長が台湾の唐奨（Tang Prize）を受賞され、11月には「斯波研究奨励基金」を創設した。

資金運用では、2018年度中に満期になった債券はなかった。債券（約24億1千万円運用）の平均利回りは前年に引き続き0.76%。株式（約4億3千万円運用）の平均利回りは3.87%（前年比0.52%増）と高配当となった。総合的な結果として、2018年度の全体利回りは1.23%となった。

経費削減には引き続き努力しており、節電を実施している。又、本年度は名誉文庫員の方3名より120万円、斯波義信文庫長より2,000万円のご寄付をいただいた。

設備関連では、本館6階書庫の書架耐震補強工事を本年度も継続したほか、展示内容及び資料保存環境の向上のため、改修を行った。ミュージアム・オリエントホールのガラス部分に遮光フィルムとカーテンを設置、オリエント

ホールから庭へ繋がる扉を二重にして風除室を設け、デジタルアーカイブ閲覧機器を更新し、展示解説システムを追加するなど改善を行った。又、附属棟2階を講演室利用も可能な多目的の会議室として改装し、事務室では紙質調査を行うための機器を保管する空間を確保するためにパーティション工事を行った。

当文庫のデータベースのアクセス数（訪問数）は月間約75万件となっている。本年度の当文庫の図書増加は、購入2,522冊、受贈3,155冊、合計5,677冊であった。

東洋学講座は、前期に「資金調達方法にみるチャイニーズネス」斯波義信研究員（東洋文庫文庫長）、「共に学ぶ宋・元・明の日用数学」渡辺紘良研究員（獨協医科大学名誉教授）、「地域のボスを告訴するには一告訴状作成ガイドを読む」大澤正昭研究員（上智大学名誉教授）、を開催した。

後期には、「イスラーム法廷文書にみる契約と裁判」三浦徹研究員（お茶の水女子大学教授）、「東洋文庫所蔵モロッコ皮紙契約文書から見る不動産の売買と相続」佐藤健太郎研究員（北海道大学准教授）、「会計のしくみ：ペルシア簿記術指南書が映す財政と経済」渡部良子氏（東京大学非常勤講師）、を開催した。

シンポジウム等としては、9月に英文による成果発信支援セミナー Preparing Papers for International English-language Journals、10月に明代日用類書をめぐる国際シンポジウム「明代日用類書と歴史学研究」、11月に国際シンポジウム「近現代中国農村的社会環境与新農村建設」、12月には国際ワークショップ Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research を開催した。

研究資料の出版では、本年度は定期出版物8冊に加え、オンラインジャーナル1件、論叢類7冊を発刊・公開した。又、各種研究会を計302回開催し、合計参加人数は2,462名であった。受け入れ外来研究者5名、外国人研究者への便宜供与は、アメリカ・中国等15カ国より、82名であった。日本学術振興会特別研究員PD・RPDの受け入れはなかった。

ハーバード・エンチン研究所に対して、当文庫は毎年研究員4名の派遣応募の資格を得ているが、本年度は3名応募したものの、いずれも不合格となっ

た。その他、学術交流関連では、2018年6月にドイツのマックス・プランク研究所、10月にはカザフスタンの国際テュルク・アカデミーとの学術交流協定の締結が完了した。

当文庫の一般向けの活動を更に強化すべく、一般向けの有料講座「東洋文庫アカデミア」を開催しているが、本年度は、漢検漢字文化研究所とのコラボレーション講座「漢字研究最先端—漢検漢字文化研究所東京講座」をはじめとして計27講座を開催し、延べ受講者は304名であった。更なる規模の拡大に努めたい。

ミュージアムでは、

- (1) 「ハワイと南の島々展」2018年1月18日～5月27日
- (2) 「悪人か、ヒーローか」2018年6月6日～9月5日
- (3) 「大♡地図展 古地図と浮世絵」2018年9月15日～2019年1月14日
- (4) 「インドの叡智展」2019年1月30日～5月19日

を開催し、年間計46,138名にご来場いただいた。それぞれの図録を「時空をこえる本の旅」シリーズとして発刊した。又、これらの展示に関連した講演会、ワークショップ、ジュニア・プログラム、演奏会等を約20回開催した。

本年度もミュージアムには、コロンビア大使、フィリピン大使はじめ、多くのVIPの訪問を得た。2018年10月16日には創立記念日レセプションを開催した。

3月と11月には、六義園のライトアップに合わせた展示「六義園をめぐる歴史」を展示した。シーボルト・ガルテンの新たな造形展示物（本年度の東洋文庫賞）は、東京芸術大学大学院今井亮介氏の卒業作品「標（しるべ）」であった。出張展示として、成蹊大学図書館における東洋文庫の展示は本年度も継続した。

株主優待（東洋文庫ミュージアム無料招待券）の利用状況については、三菱重工業、三菱商事、三菱総合研究所から合わせて7,300名にご来場いただいた。

前年度に引き続き本年度も月刊のメールニュースの発刊、機関誌である『東

『洋見聞録』の刊行を行ったほか、年3回の展示サイクルに合わせて、インターン、校外学習、博物館実習制度によりそれぞれ実習生を受け入れた。又、展示について多数の新聞・雑誌報道があった。

規程関係では、「研究倫理規約」、「奨励研究員制度」の改定を行った。又、「研究部刊行物取扱要領」を定めた（2018年10月より施行）。